

# 湖東圏域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会 第2回協議会 報告

日時：平成29年3月24日（金）13:00～14:50

場所：滋賀県湖東合同庁舎 3階 研修室

本協議会は、湖東圏域の1市4町（彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町）が国・県とともに、専門的な学識経験等に基づく助言を受けながら、水害や土砂災害を回避・軽減するための対策を協議し、自助・共助・公助のバランスのとれた地域防災力の再構築を図ることを目的としています。

## 1.開 会

会長の川嶋副市長（彦根市）より、「近年、全国で豪雨による災害が頻発している。当協議会が発足した平成26年度以降を見ても、毎年のように各地でこういった水害、土砂災害が発生しているという状況である。水防災意識社会再構築ビジョンに基づき、各都道府県の河川へも拡大するよう昨年10月に通知され、水防法等の改正についても国会審議が行われている。この協議会では、これまで滋賀県流域治水条例に基づき、人命被害をなくすことを第一優先とした取組を進めてきたが、国の動きとも連携しながら取組を進めていかなければならないと思っている。取組に関する検討結果を踏まえ、大雨に備え、少しでも被害を軽減させていく方向を模索していかなければならないと思っている。」と挨拶がありました。



## 2.主な議事

### ■協議会規約の更新について

協議会規約（更新案）の説明を行い、更新案のとおり承認をされました。

### ■「水防災意識社会 再構築ビジョン」への対応と湖東圏域の取組方針（案）について

#### 事務局説明

#### (1)「水防災意識社会 再構築ビジョン」への対応について

「水防災意識社会 再構築ビジョン」の都道府県管理の河川での取り組みについて、現状と対応の方針を報告しました。

#### (2)湖東圏域の取組方針について

湖東圏域における取組方針の方向性、内容、位置づけ等を報告しました。

## 質疑応答・意見交換

以下に各委員からの主な意見を示します。

＜水防災意識社会 再構築ビジョンについて＞

- ・滋賀県では小河川や水路の情報も含めた水害リスク情報を公表しており、その情報をもとに避難を考えること可能であるが、特に要支援者施設等の避難確保計画を検討を優先的に実施した方がよいと思われる。



＜湖東圏域の取組方針（案）について＞

- ・5年間で達成すべき目標をもっとはっきりさせ、5年後の評価が明確にできるようにした方がよい。※多々納先生の発言を確認後修正。
- ・メリハリをつけたアクションプランを作成することで、具体的な方向性を記載することができる。
- ・例えばタイムラインを作った場合、作っただけでは駄目で、それがメインの業務の中にルーチンとして入っていくことまでを5年間で取組まないといけないのではないかなと思う。

## 結 果

これらの意見を踏まえつつ、下記のとおり実施していくこととなりました。

- 湖東圏域取組方針は、取組む項目にメリハリをつけて、どのようなことから実施していくべきかを協議し明確にしていく。
- 取組方針の実施期間である5年間で何ができるのかを、どこを目標にするかを整理していく。
- 毎年、それぞれの組織の担当者は交代し、全く防災に携わったことのない方が異動して来られるケースもあるので、毎年度のメンバーと勉強しながら進めていく。

## ■今年度の取組について

### 事務局説明

#### (1)水害・土砂災害に強い地域づくり計画 圏域版（素案）について

湖東圏域取組方針の詳細版として作成した「水害・土砂災害に強い地域づくり計画 圏域版（素案）」についての概略、内容、今後の方針について報告しました。

#### (2)「避難勧告等の発令判断支援資料（案）」の更新について

市町の避難勧告等発令の支援をするための資料である「避難勧告等の発令判断支援資料（案）」について、作成目的や第1回協議会からの変更点等を報告しました。

#### (3)簡易量水標の設置について

今年度設置の簡易量水標の説明と、今後の設置要領等について報告しました。

## 質疑応答・意見交換

以下に各委員からの主な意見を示します。

＜（１）水害・土砂災害に強い地域づくり計画 圏域版（素案）について＞

- ・ソフト対策の３本柱があり、ハード対策は現在行っていることを引き続き行う。それが目標の全体につながるというソフトとハードの関係がわかるイメージ図をいれたらどうか。湖東圏域取組方針の具体的な５カ年実施計画としてはどうか。
- ・圏域での課題を議論し、追加することで、より役に立つようになると思う。
- ・流域の最下流に位置する彦根市と上流の４町のコミュニケーションを密にして市町間の風通しを良くしていかないと流域全体としての安全は成立しない。
- ・当協議会や担当者会議で市町と県とが一堂に会し、議論することは大変重要である市町間でのプラスマイナス（損得）のフランクな議論ができるという場を作るということも大事である。

＜（２）「避難勧告等の発令判断支援資料（案）」について＞

- ・災害リスクの公表については抵抗がある場合もあるが、地先の安全度マップの公表について、協議会みんなで受け入れようという姿勢になっていることがすごく重要で立派なところである。
- ・地先の安全度マップは、避難が必要かどうかの判断に加え避難経路を考える際にも役立てられるのではないか。この情報を生かすも殺すも今後の取組次第。
- ・資料に 1/10 の雨という表現でなく、時間雨量 50 ミリ等の表現で記載したほうが分かりやすい。

## 結 果

これらの意見を踏まえつつ、下記のとおり実施していくこととなりました。

（１）水害・土砂災害に強い地域づくり計画 圏域版（素案）は、湖東圏域取組方針の具体的な５カ年実施計画とすることが可能か等について、担当者会議で議論し、徐々にバージョンアップしていく。

- （２）「避難勧告等の発令判断支援資料（案）」で検討したことを、どのように地域防災計画に反映していくかを防災情報WGで議論していく。

## ■各組織での取組報告

### 事務局説明

#### （１）彦根市での取組

彦根市の立地適正化計画について、説明・報告しました。

彦根市では平成 29 年 3 月末を改定予定として、都市計画マスタープランを改定しており、街づくりにおいてコンパクトシティの形成を目指している立地適正化計画策定の考え方として、

地先の安全度マップも活用し、都市機能誘導区域、居住誘導区域と浸水エリア・浸水リスクとの整合をはかったコンパクトシティを目指している。

## (2) 愛荘町での取組

愛荘町の浸水防除対策について、説明・報告しました。

近年、台風時や大雨警報が出るようなゲリラ豪雨がたびたび起こり、宅地の被害は直接は出ていないが、田畑には越水被害が頻繁に出ている状況である。現状の水路の流下能力不足や、局所的な水路の屈曲、部分的な狭窄部、小規模開発による土地利用の状況の変化等、様々な要因がある。今年度、過去の浸水範囲や浸水形態、地形状況及び土地利用の状況、排水系統、土砂堆積や植生の繁茂状況について把握を行い、浸水要因の分析の整理を行っており、来年度は対策について彦根市や県とも協議しながらまとめる予定である。

## (3) 愛知川沿川防災情報 WG での取組

愛知川沿川防災情報 WG での取組について、説明・報告しました。

愛知川は湖東圏域と東近江圏域の境界を流れる河川で、圏域を超えた情報共有が必要だということで平成 27 年度に設置したWGである。平成 27 年度は、愛知川上流にある永源寺ダムの諸元や現地調査、愛知川の水位設定見直しのを実施した。今年度は担当者さんが変わっている市町もあったので、再度永源寺ダムの勉強等を行い、実際に破堤が起こった箇所や想定破堤箇所、流下能力の不足している箇所、またその背後地等の現地踏査を行った。今後毎年永源寺ダムの勉強や出水時の対応について関係者で議論していきたい。

## 質疑応答・意見交換

以下に各委員からの主な意見を示します。

### 〈(2) 愛荘町での取組〉

- ・次年度の結果等を改めてこの場でご紹介いただきながら、また彦根市や県の思いも共有し、広域的な取組はどうあるべきか、あるいは施策はどうあるべきかということ協賛会で検討できたらいいと思う。
- ・現在、不飲川の河川整備を実施しており、この河川整備が完成した場合の浸水リスクの変化についても検討してほしい。

### 〈(3) 愛知川沿川防災情報 WG での取組〉

- ・当防災情報WGでは永源寺ダムについて勉強されているとのことだったが、この圏域の河川には、必ず上流にダムが存在する。ダムに関して地域づくり計画への記載やダム管理者との協議等についても検討してほしい。
- ・ダムについては、「水防災意識社会 再構築ビジョン」で実施することになったトップセミナーで説明してはどうか。

## 結 果

これらの意見を踏まえつつ、下記のとおり実施していくこととなりました。

- (2) 愛荘町での取組については、来年度の検討結果を協議会で報告し、広域的な取組について議論する。
- (3) 愛知川沿川防災情報 WG での取組については、愛知川だけでなく、ダムを上流に抱える他の河川についても勉強することを検討する。またトップセミナーでのダムに関する情報提供についても検討する。

以上